

助成事業でこんな成果があがっています ～「孤立防止・認知症対策」に関する事業～

高齢者相互の有償ボランティアによる支え合い活動によって、地域に安心感を提供（NPO）

【助成事業の概要】

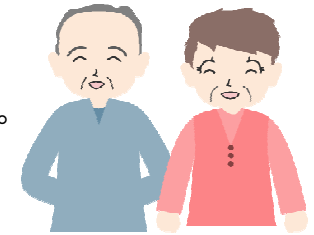
元気高齢者が生活上の課題を抱えた高齢者をサポートする「有償」のボランティアによる支え合いの仕組みを構築することで、孤立防止を図り、安心して暮らせる地域の実現を目的として、生活支援の担い手づくりと支え合いの活動を行った事業です。

【助成金の使途】

助成金は、活動参加フォーラムや参加者カフェの開催経費、利用者とのマッチングのためのコーディネーター賃金、パンフレットや活動報告書などの作成経費などに活用されています。

【助成事業の成果】

地域行政、社会福祉協議会、NPO団体、介護事業所等が一体となってサポートセンターを設置、コーディネーターによる丁寧な対応が行われていることで、利用者への適切な支援へとスピーディーにつながっています。通院・通所の付添い、配食支援、自宅の外回りの掃除など、多様な生活ニーズに応じた支え合いの仕組みを構築・発展させたことで、地域に安心感が得られています。



常設型のコミュニティカフェ運営によって住民同士のつながりづくりに役立っています（NPO）

【助成事業の概要】

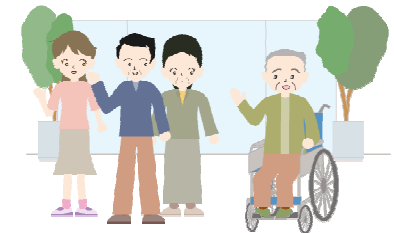
高齢者や障害児・者が住み慣れた街で生きがいをもって暮らせる地域社会を目指して、誰もが気軽に集うことのできるコミュニティカフェを運営し、趣味や健康の講座、イベントを実施した事業です。

【助成金の使途】

助成金は、コミュニティカフェの専用家賃、ボランティアへの賃金、チラシや活動ニュースの発行経費などに活用されています。

【助成事業の成果】

団体が培ってきた地域での福祉活動の実績から、医療や福祉の団体、地縁団体との連携によって、地域とのつながりが希薄化しやすい方々にも声掛けすることが可能となり、カフェの利用も大変盛況となっています。また、障害者グループの参画によっても地域の理解が深まっています。



病院からの地域移行・地域定着への仕組みを構築する精神障がい者等のための実践的モデル事業 (社会福祉法人)

【助成事業の概要】

障害のある方が病院から地域へと住まいを移行するだけでなく、地域との関わりを持ちながら生活することを目的に、病院から地域への連携の仕組みづくり（会議）、地域の方々と関わる段階的な居場所づくり（当事者サロン → 地域サロン → 地域行事）、およびピアサポートを中心とした相互支援のモデル事業を行っています。

【助成金の使途】

助成金は、研修・講座・シンポジウムの講師謝金・旅費、チラシの作製・郵送費、サロンでの日常的な消耗品費等に活用されています。

【助成事業の成果】

病院関係者と地域の福祉関係者とでお互いに連絡・調整する機会が増え、協力関係に発展しています。また、事業がきっかけとなって地域の方々同士の声掛けなど交流が進んだり、当事者が主体となってサロンの運営が行われるようになりました。



徘徊する認知症高齢者の方々を地域ぐるみで見守るネットワークづくり（任意団体）

【助成事業の概要】

地域の認知症高齢者が、徘徊などによって行方不明や死亡事故につながることを防止するため、行政、医療機関、商店街、学校などの地域資源が協力しあい、SOSメールの発信、模擬訓練、初期捜索活動を行うことで、増加が予想される認知症高齢者の早期発見につなげた事業です。

【助成金の使途】

助成金は、ネットワークづくりのための研修経費、模擬訓練経費、捜索のための自転車や懐中電灯の購入費、ステッカーやチラシなどの普及啓発経費に活用されています。

【助成事業の成果】

さまざまな地域資源が認知症高齢者に対して関心をもち「SOSネットワーク」を立ち上げたことで、地域で高齢者を見守るという意識が芽生え、実際に行方不明となった認知症高齢者を初期の段階で発見できています。地域の行政や警察などからも高い関心が得られています。

